



ロータリー:
変化をもたらす



Weekly Bulletin



2017~2018年度
RI会長
イアンH.S. ライスリー



RI 第2620地区
ガバナー
松村 友吉



2017~2018年度
静岡日本平RC会長
洞江 秀

静岡日本平ロータリークラブ週報 第2,211回例会 平成29.7.21

会長挨拶

洞江 秀 会長



本日はガバナー訪問例会です。会長セレクトミュージックは、松村ガバナーがお好きな曲だということで、映画「サウンドオブミュージック」から「すべての山に登れ (climbevery mountain)」を選定しました。

私は、音楽も映画も好きなのですが、ミュージカル映画は、話の途中でいきなり歌い出す不自然さに違和感を感じてしまい、世界で一番有名であろうミュージカル映画「サウンドオブミュージック」も一度も通して見たことはありませんでしたが、今回、ガバナーが「すべての山に登れ (climb every mountain)」を好きだという事前情報が入ったので聞いて見てみたら、とてもいい曲でした。

話は変わりますが、先週、V6の井ノ原さんが司会をするNHK「あさイチ」という番組で、ゲストのユースケ・サンタマリアさんが「新司会者のユースケ・サンタマリアです。本日のプレミアムゲストはイノッチ！」などと挨拶して、井ノ原さんも司会者を降板するとジョークに乗って話したところ、これを見て本気にしたおばあちゃんが悲しんでいるという苦情がテレビ局に入って番組で謝罪したということがネットで話題になっていました。ユーモア、ジョークと悪ノリの限界について考えさせられるニュースだと思いました。ユーモアは会話の潤滑油であり、欧米では適度なジョークを交えた挨拶でなければ評価されないと言われてはいますが、とかく、日本人はユーモアが苦手だといわれています。ジョークを飛ばす方も、その場の状況に合わせた冗談を選択する必要があるわけで、あまり過激すぎると悪乗りになってドン引きされます。他方、ジョークを受ける方も、あまりに真面目すぎると会話を楽しむ雰囲気にはなりません。多少のいたずら発言を許容してユーモアを楽しむ余裕みたいなものが必要なんだと思います。空気を読むのもむずかしいことですが、それでも、日本人はもう少し勇気を持ってジョークを言った方がいいんじゃないかと思います。今後、会長のあいさつでは、悪乗りが過ぎない範囲でジョークを交えた話をして例会を少しでも和やかな雰囲気にしていきたいと思います。

幹事報告

望月 由美 幹事

- 1 本日の例会はガバナー公式訪問です。
- 2 次週7月28日は納涼夜間例会です。
- 3 次々週8月4日は会員卓話「趣味悠々」です。第一回は、洞江会長です。
- 4 本日例会終了後、臨時役員幹事会を開催いたします。

委員会報告

管理運営委員会 松本 博 委員長
7/28(金)納涼例会があります。皆様ふるって参加下さい。

ロータリーソング

坪井 志のぶ 会員

我等の生業

会長セレクトミュージック

映画「サウンド・オブ・ミュージック」より
Climb Every Mountain (すべての山に登れ)

お客様紹介

栗原 孝明 会員

国際ロータリー第2620地区 ガバナー
松村 友吉 様(焼津RC)
国際ロータリー第2620地区 地区筆頭副幹事
浅原 博 様(焼津RC)
国際ロータリー第2620地区 地区筆頭副幹事
岡村 延昌 様(焼津RC)
国際ロータリー第2620地区 静岡第4分区
ガバナー補佐 坂本 泰俊 様(駿河RC)
国際ロータリー第2620地区 静岡第4分区
ガバナー補佐事務局長 佐藤 昇 様(駿河RC)
米山奨学生 車麗虹 様
以上6名のお客様です。

出席報告

松本 博 委員長

回	月・日	会員数	出席計算 会員数	出席 会員数	出席率	メイク アップ	確定 出席率	完欠
前々回	7/7	43名	43名	38名	88.37%	4名	97.67%	1
本日	7/21	43名	42名	40名	95.23%	—	—	—

2017年7月24日までのホームページ閲覧総回数:29863回

会員のお祝い

誕生日



松浦英彦会員 (7月27日)



京戸悦子会員 (8月1日)

スマイル

市野 桂子 会員

○洞江 秀 会長

国際ロータリー2620地区ガバナー 村松友吉様、筆頭副幹事浅原博様、岡村延昌様、第4分区ガバナー補佐 坂本泰俊様、事務局長 佐藤昇様をお迎えて。

○吉岡 章 会員

第2620地区ガバナー 松村友吉様、筆頭副幹事 浅原博様、岡村延昌様、第4分区ガバナー補佐 坂本泰俊様、事務局長 佐藤昇様をお迎えて。

○望月 由美 会員

松村友吉ガバナーをお迎え致しまして。

○阿部 裕之 会員

静高野球部後援会副会長をお願いしています。松村ガバナーをお迎えて。

○野末 辰朗 会員

大林さんの顔を見るとスマイルしたくなってスマイルしました。

○辻村宜孝 会員・大林久人 会員・山田常夫 会員

国際ロータリー2620地区ガバナー松村友吉様をお迎えてスマイルします。

○村松 克己 会員

松村ガバナーを迎えて、歓迎スマイルです。

家の近くに、富士屋高洲店があるので、良く利用します。

今度そのむかひに静鉄ストアができるので、どちらに行くか迷います。

○竹田 昭男 会員

本日は静鉄ストアのうなぎをご賞味下さい。

うなぎスマイルです。

○野上 智徳 会員

新年度、初例会出席です。洞江丸を祝して!!

○市野 桂子 会員

松村ガバナーをおむかえて。

ロータリーになる前に2度取材させていただきました。改めてお会いできたこと光栄に思います。

公式訪問 卓話

国際ロータリー
第2620地区ガバナー
松村友吉様 (駿河RC)



1. イアン・ライズリー会長のテーマ

(1) 「変化をもたらす」の意味と背景

変化をもたらす主体はロータリーです。そして、変化をもたらす対象は、2つあります。1つは外に向けて。112年の歴史を持つロータリーはこの間様々な活動を世界中で行ってきて、世界をよりよくするために変化をもたらしてきました。これからは同じように外に向けて我々は活動を展開していくわけですが、特にサンディエゴで言われたのが、行動の大切さです。Rotary In Action という標語をたくさんいただきました。とにかく行動して結果を出していこう、ということです。中でも、END POLIO については、ロータリーとしても大変な成功事例だとしていて、まもなく撲滅が実現し、次の大きな事業に取りかかるタイミングであるが、次の事業もEND POLIOのように、世界的な規模で、他の世界的な機関と協力し合いながらロータリーの良さや強みを発揮する事業を見つけていきたいと言っていました。とにかく、外に向けてよりよい変化をもたらしていきましょう、ということです。次に、内に向けての変化です。近年の規定審議会での議論を踏まえて、ロータリークラブの運営方法に柔軟性を持たせ、運営をやりやすくしていこうという動きがあります。これについては、イアン・ライズリー会長から、世界の環境の変化への対応が必要である、というお話がありました。世界の環境変化は3つありまして、1. IT化 2. グローバル化 3. 少子高齢化です。1. IT化は、我々は今や否応なく流れに飲み込まれている訳ですが、まずRIの用意したロータリークラブ・セントラルという情報ツールをクラブで存分に使いこなすこと、更に個人個人でマイロータリーのパスワードを登録して、ロータリー情報を自らやりとりすること、が求められています。この流れは後戻りしませんから、なんとか食らいついて変化に対応していく必要があります。2つめのグローバル化は経済の世界で常に言われていることですが、ロータリーが200カ国に広がり、123万人の国や言語や生活習慣の違う

次頁へつづく

人々が今やロータリアンとして世界で活躍する時代ですから組織の運営方法についてもこの面からも柔軟性が求められています。昨年の規定審議会での世界の国々の特に発展途上国から、強い要請があったようです。つまり、毎週毎週決まった時間に全員が顔を揃え会合を持つことが、発展途上の国のロータリークラブでは難しいので、もっと柔軟な規定にして、運営方法に幅を持たせてほしい、という要求が通りました。因みに来年のRI会長はアフリカのウガンダの人ですが、先進国ロータリーの意向が100%まかり通る時代では無くなってきた、ということです。3つめは、先進国における少子高齢化です。これまで長い間ロータリー活動を牽引してきた先進国では、程度の差はありますが、少子高齢化が進んでいます。なかなか会員の数が増えない、増えないどころか減っていく傾向にあります。RIは必死で会員維持増強を訴える背景に、この少子高齢化があります。会員の減少は、直接組織の活力低下になっていきます。RIはここ15年間会員の増強のために試験的にいろいろな試みをしてきました。その結果、組織運営に柔軟性を持たせ、会費の減額や例会の頻度を減らす等が一定の効果を示した、ということで、RI理事会としても、クラブ運営に柔軟性をもたせることを後押しした、ということです。

イアン・ライズリー会長のいう内に向けた変化は、これからの時代の変化にうまく対応するために、組織づくりや運営方法に変化をもたらすことも必要だ、という示唆であると思っています。

(2) 私の考え方

私自身、サンディエゴでイアン・ライズリー会長のテーマを初めて耳にした時は、実はあまり大きな違和感を感じませんでした。なぜなら、私自身中小企業の経営者として1番心がけていることが、時代の変化に対応する、ことであり、そのために常に自分の会社にすこしずつ変化をもたらす、商品やサービスそして組織そのものが陳腐化しないようにしているからです。経営者の役割はそこにあって、日々のルーティーンをこなすことは、経営者の第一の務めでは無いと思っています。よくゴルフを経営者仲間ですると、プレイ中常に携帯からいろいろな指示を出している経営者がいますが、その人が後輩なら、ちょっとそのやり方は違うんじゃないの、と言ってしまいます。日々のルーティーンをこなすことも大事ですが、大きな流れを捉えて会社経営に変化をもたらすことが経営者の役割であると思います。そういう意味では、今年のイアン・ライズリー会長のテーマは、全く違和感はありませんでした。

ただ、これまでロータリーを一生懸命やられてきた先輩ものロータリアンから、こんなに規律を緩めていいのか?あるいは、ロータリーの本来の精神も揺らいできているのではか?との懸念が多々示されています。これから会員の増強に力を入れ、若者・女性あるいはサラリーマンの方々を数多く勧誘していけば、会員の質の低下とか、心配される向きもありよく理解できるのですが、本当に数を絞り、会員数が減少してもロータリーのこれまでの質のみに拘っていくのがいいのか、まだここ当分何年かは議論が続くのではないかと思います。私の考え方を聞かれれば、企業経営と同じで、環境に合わせて組織を変化させていき、それがむしろ組織強化に繋がる、というのが私の考えです。やはり、一定の会員数は必要です。私のクラブでは、51年目私が会長の時、初めて女性会員を入れ現在3名、若者も多く入って平均年齢は4才下がりました、サラリーマン会員も専門知識を生かし、多に活躍してくれています。年配の会員もいま一生懸命地区運営を支えています。あまり恐れず広く人材を求め、入会のタイミングでうまく指導していただくことが大切なのではないかと思っています。

また申し上げたいのが、組織運営の方法に変化をもたらしても、ロータリーの精神の根幹は、変えてはならない、ということです。イアン・ライズリー会長もこのことは明確に言われていました。ロータリーの目的、5つの中核的価値、4つのテストは全く変わっていません。変えていくものと、変えてはいけないものをしっかり見極め、未来に向けてロータリーをしっかりと牽引して欲しいと思います。

2. 未来のロータリーを考える

果たして100年後のロータリーはどうなっているのでしょうか?サンディエゴの国際協議会の本会議の最後に、シカゴのEクラブの会員で20代のシリコンバレー経営者が、蕩々と未来のロータリーについて、危機感を交えて語りました。この若者に未来のロータリーを長々と語らせたのも、RIの意思だと思います。われわれも1ロータリアンとして、未来のあるべきロータリーの姿について語り合ってもいいのではないかと思います。これからの若者が入会したいと思うロータリー、この会に入って一緒に活動してみたいと思うロータリーにしていかなくてはなりません。そのためには、まず我々自身が変わっていくべきなのか、あるいは日本のロータリアンとして、もっともっとRIに対して言うべきことを言うべきなのか、そして世界全体のロータリアンとしてどんな行動をとっていくべきなのか、話しは大きくなりますが、100年単位の視野で考えることですから、萎縮することなく本音でいろいろ議論出来たら、と思います。是非、みなさんもこの機会を捉え、未来のロータリーについて考えて欲しいと思います。